

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
470003	X-13/31-B-2-470003	2	インター ナシ ョ ン ・ 学 外 実 習	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
学外実習	内田 亨			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	選択	3年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	選択	3年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	選択	3年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	選択	3年
授業目的							
<p>学外実習は、大学と企業等とが事前に協議し、大学から派遣された学生が、ある一定期間、企業等において、就業体験を行うものである。この科目では、学生が大学で学んでいることがらが、実社会でどのように役立つのかを、企業等に入って体験し、そこで得た知見や経験をもとに、専攻分野での知識向上、学習意欲の向上を図ることを目的としている。併せて、学生が就職を含め、将来の進路を考える上で貴重な経験と情報を得ることができる。</p> <p>こうしたことを学ぶことによって「健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決に当たることができる」人物像を目指す。なお、実習先によりプログラムが違うが、一例を下記の各回ごとの授業内容に記す。</p>							
各回毎の授業内容							
成績評価方法							
実習先からの評価票、実習レポート、担当教員との面談、によって総合的に評価する。							
教科書参考書							
受講に当たっての留意事項							
<ul style="list-style-type: none"> ・実習先担当教員との面接は必須である。 ・学外実習による就業体験は、アルバイトではないので、実習先が提供する研修・就業に参加するという目的意識をしっかりと持って臨むこと。 ・実習先における態度、成果は、本人はもとより、本学に対する評価につながる場合がある。そのため、学業成績、日常の規律遵守に著しく問題のある学生に対しては実習を許可されない。参加する学生は、本学から派遣されていることを自覚して就業に臨むこと。 ・各企業の希望者が実習先の受入れ人数を越えた時は、担当教員が選考する（実習できない場合がある）。 							
学習到達目標							
JABEE							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習